

# 仕訳定義書 v2.2

## 2. 仕訳生成ルール

### 2.1. 取引日付

- 請求書データの `issueDate` を仕訳の「取引日付」とする。

### 2.2. 勘定科目

- 借方勘定科目:**

- 原則として、請求書データの `accountTitle` をそのまま使用する。(例: `accountTitle`が「広告宣伝費」なら、借方勘定科目は「広告宣伝費」)
- 特別ルール:** ベンダー(`vendor`)が「株式会社E」の場合に限り、`accountTitle` の内容に関わらず、借方勘定科目は必ず「地代家賃」とすること。

- 貸方勘定科目:**

- 個別ルール:** ベンダー(`vendor`)が「株式会社F」の場合は、「買掛金」とする。
- 金額ルール** (上記個別ルールに該当しない場合):
  - 請求金額(`amount`)が500,000円未満の場合は、「未払金」とする。
  - 請求金額(`amount`)が500,000円以上の場合は、「長期未払金」とする。

### 2.3. 金額

- 請求書データの `amount` をそのまま仕訳の「金額」とする。

### 2.4. 摘要

- フォーマットを「【支払】{ベンダー名}({請求書番号})」に統一する。(例: 【支払】株式会社A (INV-2023-001))

## 3. データ仕様

- 取引日付:** `YYYY-MM-DD` 形式の文字列。
- 金額:** 半角数字のみの整数。
- 勘定科目:** 会計システムに登録済みのマスターデータと一致する文字列。
- 摘要:** 最大64文字までの文字列。

## 4. 例外処理

- 勘定科目の不一致:** 請求書データの `accountTitle` が会計システムの勘定科目マスターに存在しない場合、そのデータは連携エラーとして扱い、システム管理者に通知する。仕訳データは生成しない。